

## 初期新高ドイツ語中辞典作成の試み (2) abweg~alraun

工藤 康弘

本稿は「初期新高ドイツ語中辞典」の作成という構想のもと、初期新高ドイツ語の語彙を日本語で説明し、それに例文と日本語訳を付ける試みである。今回は *abweg* から *alraun* までを扱う。これは以下に挙げる研究から継続している。工藤康弘「初期新高ドイツ語中辞典作成の試み(1)」関西大学『文学論集』第70巻、第1・2合併号、2020年、79~97ページ。辞典としての構想・方針および凡例は工藤(2020)を参照されたい。例文の出典は重要な情報であることから、略記号を用いて巻末に挙げてある。この出典一覧には本稿における語彙の説明に用いなかった文献も含まれている。たとえば *ACKERM.* は(1)から(5)までであるが、そのうち(1)と(4)だけを用いた場合、その掲載誌に限って(4)を(2)に書き換えると煩雑になる。今後増えていくであろう出典一覧は、将来的に一冊の辞典にするための資料と考え、すべてまとまった形で掲載したい。

工藤(2020)で行なわなかった試みとして、方言と年号の記述がある。略記号の文献を挙げる際は方言と年号の情報は載せないが、特に *Frühneuhochdeutsches Wörterbuch* (de Gruyter) などから引用する際は、テキストが書かれた地域と時期を記した。ただ、これによって煩雑さが目立ち、他の情報が見つらいといった弊害があれば、将来的に方言と年号の記述をやめることもありうる。以下、辞典の本文を記す。

**abweg** I. adv. ついでに言うとき、*wie dann die narren selber (abweg, damit ich nicht dich vnd mich zu gleich treffe, dann es mus gewaget sein vnd gelten) nit vertragen können das jnen jr thorheit [···] durch einen Narrn fürgeworffen [···] werde.* 阿呆たち自身 (これはついでに言うておく、

私の言うことがきみと同時に私にも当てはまるといけないから. なにしろそれは勇気のいることだし、世間にも通用せねばならないのだ) 自分の愚行を [...] どこかの阿呆に責め咎められるのは我慢できないものである. (SCHILDB 331 ページ 6 行, 『ラーレ人』 42 ページ)

★ SCHILDB の注では *beiseite (gespröchen)* ? と疑問符を打っており、この意味が不確かであることを示している. 一方 FW はこの箇所を例に出し、>*beiläufig, nebenbei*<, *zur Einleitung einer Parenthese* (挿入句を導く) としている. II. adj. 去って. *hawsgeraet, daz im verstoln oder abweg getragen waer* 彼のところから盗まれ、あるいは運び去られた家財道具 (上部ドイツ語の中東部 <moobd.> 1347 年, FW 483 ページより引用)

**abwesen** n. 不在. = nhd. Abwesenheit. *in ewerm Abwesen* あなたの留守中に (PAULI (1) II 66 ページ), *in abwesen ihres mannes* 彼女の夫の留守中に (中部スロベニアのドイツ言語語島, 1625 年, FW 498 ページより引用)

**abwünschen** vt. 消したい (減らしたい) と思う. = nhd. wegwünschen. *Das nun der arm, vnselig thor | Abwünschen kynne (= könne) viertzig ior (= Jahr)*, 哀れで、気の毒な阿呆が四十年若返れたらと (MURNER (1) 94 章 22 行)

**abziehen** vt. (jm. et.) (服を) 脱がせる. (*Siegfried*) *zog ihm seinen Harnisch ab*, ジークフリートは相手のよろいを脱がせた (SIEGFRIED, 253 ページ) refl. 服を脱ぐ. = nhd. ausziehen. *An seyten herumb seind braite prucken / darauff sich die Badleüt abziehen* / まわりの傍らには広い橋があり、その上で浴場の客は服を脱ぐ (BK 125, 29 ページ 22 ~ 23 行)

**abzucken** vt. 取り去る. *Darumb zuckt er im ab zwo kron | Vnd hat im nur die kleinst gelon* それゆえにあの男は彼 (= 教皇) から二つの冠を奪い、一番小さい冠のみを残してやった (MURNER (2) 2145 行)

**abzug** m. ① 立ち去ること、離脱. *da hat man sie geurlaubt und jedem ain halb monatsold für den abzug geben*. そこで彼らに暇を出し、離れるにあたって一人一人に月給の半分を与えた. (シュヴァーベン方言, 1548 年, FW 522 ページより引用) ② 損失, 損害. *Doch mit nichte*

- Got vertreit | Den abezug der gerechtekeit. しかし義が損なわれることを神は決してゆるさない. (HIOB 12920 行)*
- ach** n. 苦しみ, 痛み; 嘆き. *Seht, daz ist irs hertzen ach | Und tut ez an mir rechen!* 見よ, これが彼女の心の嘆きであり, 私にその復讐をする. (MINNEBURG 4700 行)
- acht** f. ① 注意, 顧慮. 「注意する, 顧慮する; 気づく」を意味する表現として *acht haben / geben / nehmen* があり, *et.*<sup>2</sup> または *auf et.*<sup>4</sup> をとる. 分離動詞とも考えられるが, たとえば *gute acht haben* のように形容詞を伴うことがある. さらに同じ意味で *et. in acht nehmen, sich in acht nehmen* という表現もある. vgl. *achthaben, achtnehmen. Hab gute acht!* よく注意しなさい. (『ザックス』86 ページ) *So hon die menschen mein kein acht* 人は私のことを気にもとめない (MURNER (2), 4471 行) *der nam yeder zeit mit fleis acht/ uff die reden so die gesellen mit einander hetten/* 彼は仲間たちが互いにやり取りしている話に, いつも熱心に注意を払っていた. (BK 235, 12 ページ 26 行, Wickram) ② 身分; 価値. *Ein frummer pur in syner acht, | Der selb ist aller eren werdt, 分相応のまじめな百姓が, いちばんの名誉に価する (MURNER (1) 79 章 22 行)* ③ 迫害; 追放, 法的保護の剥奪. [*…*] *in der unwiderbringenden swersten achte Gotes, aller leute und jeglicher schepfung alle zukünftige zeit beleibet* けっして許されることのない, 神と人間とすべての被造物による最も過酷な放逐刑のうちに永遠にとどまりなさい! (ACKERM (1) (4) 1 章 16 行) ④ 土地, 畑地. ★FW (249 ページ) は *Beunde* (囲い地) の訳語を与え, 類義語として *brül (=Brühl), feld, wise, garten* を挙げている. ⑤ (農民の) 賦役. *wir sie [*…*] aller schazung, stewer; acht oder frohn frey lassen [*…*] wollen* 私 (たち) は彼らのあらゆる年貢, 租税, 賦役を免除したい (1483 年, GR.NEU, 1367 ページより引用)
- achtbären** vt. …の名を高める, たたえる. *Als man by alden zyten phlac | Edlen luten [*…*] | Bilde houwen uf ir grab, | Daz man sy [*…*] | Baz achperte unde herte* いつの世も高貴な人たちに対してもっとその名を讃え, 気高いものにするために, その人たちの墓によく肖像を刻んでいたように (HIOB 4377 行)

- achten** vt. (dass…) …と思う. vi. (2支) ① 尊重する, 重んじる. *Man acht keins künstenrychen mer* […] 知識豊かな人をもはや尊重しないで (Murner (1) 82 章 74 行) (*D. Faust*) *achtet ihm hoch, daß ihm der Teuffel vnterthänig seyn solte* […] (ファウスト博士は) 悪魔を従えることこそ肝心だと心に決めている (FAUST 186 ページ 32 行, 『ファウスト』25～26 ページ) ★ここでは目的語が2格かどうかは曖昧になっている. なお ihm は3格の再帰代名詞と解する. ② 注意を払う, 顧慮する. *Du solt deiner selen heil betrachen | Vnd irer iunckfrawschafft nit achten.* 自分の魂の救いを考えるべきで, 彼女たち (ベギン会の女) の処女性などどうでもよい. (MURNER (2) 4543 行)
- achtet** (序数) 8 番目の. = nhd. acht. ★ FW (550 ページ, 見出し語 acht) では序数として *achte, achtend* という語形もあるとしている. […] *da fiel er nider und ward unsinnig, ein Stum und ein Blind und bleib also biß an den achteten Tag.* 男はぼったり倒れて気を失い, 口も利けず目も見えず, 丸一週間 (= 8 日目まで) そのままの状態になってしまいました. (PAULI (1) (2) 552 話)
- achthaben** vi. (2支 / auf…) 顧みる, 注意を払う, 気を配る, …のことを考える. = nhd. achtgeben. vgl. acht ① *Jm würtzhuß sitzens tag vnd nacht | Vnd hondt ir arbeit nymmer acht;* 彼ら (農民) は昼も夜も飲み屋にいらびたり, 自分たちの仕事など気にもかけない (MURNER (1) 92 章 144 行) ★ *ir arbeit* は2格と解釈. *Das sie haben auff arbayt acht,* 彼らが仕事に気を配るように (『ザックス』50 ページ)
- achtnehmen** vi./vt. (2支 / 4支) …を考慮する, …に注意を払う, 注意する. […] *der dat nim acht!* 行為に注意せよ. (MURNER (2) 3960 行) *Nim deren leben eben acht | Die sich doch lutherisch hon gemacht* ルター派になった人々の生きざまに注意せよ (MURNER (2) 3966 行) ★ leben は4格と解釈.
- ackerlänge** f. 長さ (距離) の単位. […] *biß sie aber ein Ackerlängen giengen.* また一町ほど道を進むまで (EULENSPIEGEL 9 話; 『オインシュピーゲル』19 ページ)
- adamas** (別形 adamat, adamant) m. ダイヤモンド. *Sie ist gelich dem kiseln | An veste und auch dem adamas* それは固さにおいて小石やまたダイヤ

- モンドにも似ている (MINNEBURG 2009 行)
- ade** int. さようなら. 【類義語 *alde*】 *Ade, ich far dahin.* (父親が息子に) わしは帰る. さらばだ. (PAULI 643 話, 『パウリ』 606 ページ)
- adel** m. 完璧, 極み. *Nieman enmak gotes adel noch sein wirdikeit mit keinen dingen begreifen.* 神の完璧さも尊厳も理解できる人はいない. (チューリンゲン方言, 15 世紀, FW 620 ページから引用) ★FW では同じ箇所では *aller adel und volkomenheit* と類義語を併記した例を挙げている.
- adelheid** f. 女性の放浪歌手 / がみがみ言う女性 / 軽薄な女性 / 娼婦の象徴. *Also sein etlich Frawen, die verkert Adelheit, denen niemans recht kan thun* [...] このように [...] 誰にも手のつけようのない悪妻 アーデルハイト のような女がいくらかいるものです. (PAULI 142 話, 『パウリ』 153 ページ) *Schlag vff / schlag vff, liebe adelheit | Vnd mach vnß mit der luten freidt!* 弾いてくれ, 弾いてくれ, かわいい歌姫よ | リュートで我々を楽しませておくれ (MURNER (2) 4234 行)
- ader** = nhd. oder. *gedacht ader gesagt* 考えられた, あるいは言われた (BK 155, Blatt 16 recto, 21 行)
- äderlein** (別形 *ederlein*) n. 血管. < *Ader. [...] hastu alle Ederlin in dem Schaff gesehen, und hast den grosen Fogler und das Garn nit gesehen?* あんたには羊の体内の血管は一本一本見えても, 大柄な獵師や網は見えなかったんですか. (PAULI (1) 『パウリ』 290 話)
- adhortieren** vt. 励まして…させる, 煽る, たきつける. *So kan er gschmeidig ynhar treten | Vnd kan die menschen adhortieren, [...]* そうして彼 (ルター) は如才なく人に近づき, 人々をたきつけることができる. (MURNER (2) 2125 行)
- adulieren** vi. お世辞を言う, こびへつらう. *Woltestu Krut essen, so bedörfstestu deinem Herren Dionisio nit adulieren und Schmeichlerei treiben.* お前が雑草を食べるつもりになれば, なにも主人のディオニシウスのご機嫌を取ったり, お世辞を言ったりしなくてもよいのに. (PAULI 382 話)
- affe** m. ① 猿. ② 阿呆. 阿呆の象徴として *pfaffe* との対でよく用いられる. *Got hat euch selbs darzu beschaffen, | Das ir sein pfaffen vnd auch affen.* お前たちは司祭であるが, 猿でもあることを, 神自らが定めら

れた。(MURNER (2) 1475 行) ★FW (664 ページ) では, *jm. den affen geigen | machen | sehen lassen | weisen* で「ある人をからかう(愚弄する)」を意味するとしている。

**affen** I. vt. からかう, ばかにする. II. n. 愚行 vgl. *narrenspiel. [...]* *luten | Die sulhes effen trüten.* そのような愚行を好む人々 (MINNEBURG 4000 行)

**affenspiel** n. ① からかい. *Der bößwicht wil nit lutherisch sein, | Verspottet vnß in narren schein | Vnd treibt vnß vnß ein affenspiel!* あの悪党はルター派になろうとせず, 阿呆の格好をして我々をあざけり, 馬鹿にする. (MURNER (2) 3404 行) ② 馬鹿げたこと, 悪ふざけ. *Also die zwen schickten sich zu der Thorheit und triben vil Affenspiel [...]* そこで二人は愚行の準備をし, 馬鹿げたことをたくさん行ないました (EULENSPIEGEL 24 章) ③ いんちき, ペテン. 【類義語 *tand, gaukel*】 *Auch martin luthers grose sachen | Zum hüppenfaß vnd gauckel machen, | Zu affenspiel vnd buben dant.* マルティン・ルターの偉大な業績をも茶番やいかさまにしてしまい, 猿芝居や子供騙しにして貶める. (MURNER (2) 23 行)

**affenzil** n. 詐欺, ごまかし. 【類義語 *beschiss*】 *Er meint, es sy des herren wil, | So ist es nun ein affen zil.* 彼(傭兵)はそれをお偉方の意志だと思っているが, 実際はペテンなのだ. (MURNER (1) 55 章 52 行)

**afterkoser** m. 誹謗者, 中傷者. *Do Daid sach das gemert wurden die afterkoser vnd [...]* *abreysser vnd die valschen besager.* 誹謗者, 中傷者, そして誤った告発者たちが増えたことをダビデが見たとき. (シュトラスブルク, 1466 年, FW 691 ページより引用)

**aftermontag** m. 火曜日. *Mit dem Maistral fuhren wir wider fort/ vnd kamen bald so ferrne/ das wir am Affiermontag den 15 Septembris zeitlich die Insel Cretam mochten ersehen/* ミストラルに吹かれて私たちは再び出航し, まもなく遠洋へ出て 9 月 15 日の火曜日, 早めにクレタ島を見ることができた. (シュヴァーベン方言, 1582 年, BK125, 15 ページ 11 行)

**afterrede** f. 誹謗, 中傷. 【類義語 *afterkose, afterspiel*】 *Dy dritte not ist afterrede | Valscher zungen ungetwede;* 第三の災いは悪意のある無思慮な

口による誹謗中傷である。(HIOB 1943 行)

**afterreue** f. 後悔, 苦しみ, 悲しみ. *Bis nicht zu snelle, so swerlich zu fluchen, den worten das du nicht bekümmert werdest mit afterreue.* 早まってそんなにひどく罵るな, 後悔して悩むことになるぞ。(ACKERM (1) 2章 20～21 行) ★ bis は sein 動詞の命令形. den worten das は注によると damit に相当し, 目的文を導く. 直訳すると「後悔して悩むことにならないように」

**afterspiel** n. 誹謗, 中傷. 【類義語 afterrede, afterkose】[···] | *Mit schimphe und mit afterspil* [···] 誹謗や中傷でもって (HIOB 11530 行)

**ahnden** vt. ① …をとがめる, …に報復する. *Der ist eyn narr der anden wil | Dar zu sunst yederman swigt still.* 他の誰もが黙っているのに, とがめようとするのは阿呆である。(バーゼル, 1494, Brant. Narrenschiff, FW, 1028 ページより引用) ② (人<sup>4</sup>) を苦しめる. *Mir ist bekümmert sinn und mut, | Weiß nicht, was args mich anden thut.* 私の気持ちは晴れない, どんな嫌なことが私を苦しめているのかわからない. (ニュルンベルク, 1561, Sachs, FW 1028 ページより引用) ③ …を不愉快に思う. *Hunger, Durst, Hitz, Frost vnd Kält, | Thete er nit anten.* 空腹, 渴き, 暑さ, 凍てつく寒さを彼は不快に思わなかった. (ニュルンベルク, 1631, FW 1029 ページより引用) unp. 不愉快に思う; 苦しい.

**ahnen** (別形 anden) vt. 予感する. *Wiewohl nun solches noch von fernen ist/ und von uns deutlich nicht kan vernommen werden/ so andet es doch unser Gemühte/ daß es mit der Zeit auch uns gelten werde [···]* そのようなことはまだ遠くにあり, 私たちにははっきりとは感じられないとしても, それが時とともに私たちにも関わってくるということ, 私たちの気持ちは予感するのである。(チューリンゲン方言, 1664 年, BK 257, 165 ページ 10 行) unp. (人<sup>4</sup> または人<sup>3</sup>) mich (mir) ahnt 私は予感する. *Mich anet zwor in hoffens gir | Wie mich noch trosten sulle gehüre, | Minne, [···] | Von dinen süßen reten.* ミンネがその甘い語りでもってさらに私をやさしく慰めてくれるだろうと私はしかと期待をこめて予感している。(MINNEBURG 3206 行)

**ahnherr** (別形 anherr) 祖父. vgl. anher. *Der erst geborn/ das ist Hans / starb noch in des Vatters leben/ verließ ain Sun DEMETER genant/ den hat*

*der Anherr an seines abgestorbnen Sun stat nach jrem gebrauch in das Großfürstenthumb eingesetzt.* 最初に生まれた子ハンスは父親が活着しているうちに亡くなり、息子デメトリウスを残した。祖父は彼を亡くなった息子の代わりに慣習に従い、大公国（の領主）に据えた。（中部バイエルン方言<ウィーン>、1557年、BK 115, C1 verso, 34行）

**ahnmächtig** → ohnmächtig

**ähren** → eren

**aintweder** → eintweder

**alb** f. アルバ（僧が着る白い祭服）*Da stund Ulenspiegel hinder ihm unnd richtet ihm sein Alb zurecht. Da ließ der pfaff ein grossen Furtz, daz es uber die Kirchen erhalt.* そこでオイレンシュピーゲルが彼（司祭）の後ろに立ち、その祭服を整えました。すると司祭が大きなおならをしたので、教会中に響き渡りました。（EULENSPIEGEL 12話）★ PAULI（652話）にも同様の話があり、*die Alb* と記されている。

**albe** f. 高山；高原の牧草地。*Und wan di wolken allenthalben | Sich czyn (=ziehen) uber berk und alben,* 至る所雲が山や高原の上を覆うと（HIOB 13720行）

**alber** adj. 素朴な、単純な。[···] *wie kündte man ein feiner buch jnn weltlicher Heidnisscher weisheit machen, denn das gemeine, albere kinderbuch ist, So Esopus heisst?* イソップという名の普通で素朴な子供の本より、世界的で異教的な知恵を持ったすてきな本を作れようか。（LUTH.FABEL 167ページ）★ FW（753ページ）にはルターの例が2つあり、*grob und alber* のようにややネガティブな意味に解釈される場合と、*gute, albere leutlin* のようにポジティブな意味に解釈される場合がある。

**alchamei**（別形 *alchimei, alchimey, alchemy* etc.）f. 錬金術。

**alchameier** m. 錬金術師。= nhd. Alchemist. *Das Wasser die Alchameyer suchen, damit sie Gold machen nach irer Kunst,* その水は錬金術師たちがその技術を用いて金を作るために探しているものです（PAULI（1）328話）

**alda** adv. (daの強め) そこに、ここに。 *Wont nicht ein Römerin alda, | Die heist mit nam Lucretia?* こちらにルクレチアという名のローマのご婦人



はお住まいではありませんか。(『ザックス』82 ページ)

**alde** int. さようなら。【類義語 *ade*】*Alde, Got behüt dich!* さようなら、神のご加護がありますように。(PAULI 373 話) *Alde, far hin, du öde welt, sáráb,* お別れだ、くだらぬ世界よ (MURNER (2) 4436 行) ★ MURNER (2) の注によれば、*ade* のアレマン・シュヴァーベン方言形で、民謡や宗教改革時代のパンフレット文学によく現れる。

**algemach** adv. 落ち着いて、慎重に、ゆっくりと、次第に。 *das man allgemach handeln muß, damit nit in der eil schwere vnruw erwecket werd* 急ぐあまりに重大な騒動が起こらないよう、慎重に行なわなければならない (1559, GR.NEU 420 ページより引用) *in solchem unsren gespräche stiege die sonne allgemach empor und hervor* 私たちがそうして話している間に、太陽がゆっくりと昇った (1657, GR.NEU 421 ページより引用) ★ FW は「まもなく」(in Kürze, bald) という意味も挙げているが、その例文が GR.NEU では「落ち着いて」の意味で載っており、解釈が揺れている。本稿では「まもなく」という項目は立てなかった。また以下の例に見られるように、「ゆっくり」は「快適に」とも隣り合わせであり、そのように解釈できる場合もある。 *Jnn dem wir also allgemach fortfaren/ erhebt sich ein anderer Wind/ [···] / welcher vns nicht wenig zuwider/ das wir also abermals an vnserer fart verhindert/ vnnd getrunge<sup>n</sup> wurden/ こうして私たちがゆっくりと (快適に) 出航すると別の風が起こり、それがひどい向かい風となり、またもや航行が妨げられ、追い立てられることになった (BK 125, 15 ページ 17 行)*

**all** I. adv. 強調に用いられる。たとえば *all gar* は *ganz und gar* の意味。 *Ouch liegent, wie die frucht all gar | Der hagel cläglich hab zerschlagen.* (彼らは) 農作物はあられによって全滅したと嘘までつく。(MURNER (1) 79 章 52 行) II. adj. 副詞と同じく強調に用いられる。 *Vnd wie sie mich vereret hant | In allem gantzen tütschem lant,* (彼ら<ルター派>は全ドイツで私に名誉を与えた(皮肉=恥をかかせた) (MURNER (2) 1832 行) [···] *muß vber alles das also ein mechtiger groser nar sein* (私の名誉を守ってくれるものは何もないし) それどころか私はとてつもない大阿呆にならなければならない (MURNER (2) 序文 74 行)

**allefanz** (別形 *alefanz, alenfanz*) m. ① いたずら, 詐欺, ぺてん, 策略。

*Was sollen sie in klöstern liegen, | Wie die süw thun in der stigen? | Got schend den selben allefantz!* なぜ彼らは家畜小屋の豚のように、修道院で寝起きしなければならぬのだ。そんな詐欺は神がつぶしてほしい。(MURNER (2) 1360 行) ② (不当な) 利益. *Sy möchten [···] Alfantz und aigen nutz suechen.* 彼らは自分の利益を求めようとする。(東上部ドイツの中部, 1478 ~ 1481 年, FW 766 ページより引用) ③ 賄賂. *Dy [Juden] gaben des herczogen räten grossen allfanncz.* 彼ら(ユダヤ人たち)は大公の評議員たちに多額の賄賂を贈った。(東上部ドイツ語, 15 世紀前半, FW 766 ページより引用)

**allein** cj. 従属接続詞として前文に対して制限を加えたり、対立的な内容を表わす。現代語の *es sei denn, dass*…や *obwohl* などに相当。 *doch* を伴うことがある。「ただし…ではあるが」「もっとも…だが」さらには認容的に「…ではあるが」といった意味になる。[···] *allein wir doch manigen künsterreichen, edeln, schönen, mechtigen und heftigen leuten ferre über den rein haben gegraset, [···]* 確かに私は有能で、高貴で、美しく、強く、権勢のある人々を数多く、畦の区別なしに刈り取ってはきたが (ACKERM (1) 2 章 9 行)

**allerdinge** (別形 *allerding, allerdings, allerdingen*) adv. ① まったく、すべて。 *Daz ich diser pyne loz | Gar aller dinge wurde.* 私がこれらの苦しみから完全に開放されるために。(HIOB 2095 行) ② あらゆる点で。 *fürst Wilhelm kam anno 1509 wiederumb auß der acht vnd ward durch kayser Maximilianum allerding restituieret* ヴィルヘルム公は 1509 年追放処分を解かれ、マクシミリアン皇帝によってすべての点で原状に戻された (1620 年, GR.NEU 352 ページより引用) ③ しかし; 他方。

**allerferrest** adv. 非常によく。 *Hört zu; ich sag uch daz, | Als ich aller ferste kan.* 聞いてください。できる限りこのことをあなたにお話します。(MINNEBURG 4651 行)

**allerhab** adv. 至る所で。 = *nhd. allenthalben*. *Wir haben allen funt vnd list | Dem entendieb vor zu gerist (= zugerüstet), | Schmachbüchlin geschriben aller hab;* 我々はあの鴨泥棒に対し、事前にあらゆる策を講じ、至る所で誹謗文書を書いた。(MURNER (2) 3341 行)

**allermänniglich** pron. (形容詞的变化をする場合と無変化の場合がある。

また FW 798 ~ 799 ページによると、縮約された *allermallich*, *allermelich* といった形もある) 誰もが, どの人も. *Von mir und aller menniglich sei stetiglichen über euch ernstlich zeter geschriren mit gewundenen henden!* 私と人類すべてによって, 両手をよじりながらの告発の叫びが, あなたに向かって投げつけられるがいいのだ! (ACKERM (1) (4) 1章)

**alles** adv. いつも, 常に. [ $\dots$ ] *Daz der tuvel und sine lut | Allez da wonet unde rut | By den luten di muzec gen | Und gerne in dem schaten sten.* 無為に過ごし, 日陰にいたがる人々のもとには常に, 悪魔とその仲間が住み, 憩っている. (HIOB 14866 行) *Durch den dicken hag ich kroch | Und volget als der stymme nach, | Bis ich ein einsidel sach | dort sitzen, [ $\dots$ ]* 私は鬱蒼としたやぶの中を這っていき, 絶えず声のするほうをたどっていると, 一人の隠者がすわっているのを見た (MINNEBURG 4332 行)

**allesament** (別形 *allesant*, *allensant*, *allesammen*, *alsamen*) adv. みな, すべて, みないっしょに. = nhd. *allesamt*, *alle zusammen*. *Darumb mießt ir all dar zu louffen | Vnd da vergaffen allesandt,* それを求めてお前たちはみなそちらへ走り寄り, みないっしょに口を開けてみとれてしまう (MURNER (1) 59章 64行)

**alleweil** (別形 *allweil*) I. adv. いつも, ずっと. II. cj. ① …している限り (nhd. *solange*); …している間 (nhd. *während*) *Vnd wa man sy bestechen wolt | [ $\dots$ ] | All wyl sy das nit hondt genummen, | Sindt sy zu grosser herrschafft kummen.* 彼ら (ローマ人) を買収しようとしても, それ (お金) を受け取らない間は大きな領土を得ていた. (MURNER (1) 82章 93行) ③ (理由) …なので. 【類義語 *weil*】

**allhie** adv. (*hie* の強め) ここで. *Wir wöllen euch allhie zu ehrn | Ein kurtz tragedy recedirn* ここであなたがたのために短い悲劇を上演したいと思えます (『ザックス』 81 ページ)

**allwegen** (別形 *alweg*) いつも. vgl. 英語 *always*. *Das sol nit alwegen sein, いつも そうとは限りません* (PAULI 605 章) *So was alweg Fridbert der freüntlichest / züchtigest und ernsthaffügest* いつもフリートベルトが一番やさしく, 落ち着いていてまじめでした (KNAB.SPIEGEL 15 ページ 3行)

**allzeit** (別形 *allezeit*) adv. ① いつも. *Geboten ding nicht tun, verboten ding tun fleißet sie sich alzeit*. 命じられたことはやらず, 禁じられたことはやっけてのけることに, 彼女 (= 女) はいつでも血道をあげる. (ACKERM (1) (4)) ② 何度も, そのつど. (*der*) *liez sich allzit schawen* 彼はいつも現れた (MINNEBURG 3898 行)

**almosener** (別形 *almusner*) ① 施物配分係. [*…*] *denen befalhe er die üsserlichen Empter, als Gastmeister, Portner, Almußner sein*, [*…*] 彼 (修道院長) は彼ら (修道士) に接待係や門番や施物配分係のような外部と関わる部署に任じました (PAULI (1) 60 話) ② 慈善家. [*…*] *ee er in het, da was er ein großer Almußner. Das hat er abgebrochen, auch hat er angefangen unfertig Gut zu gewinnen, damit er seinem Sun gute Narung ließ*. 彼は彼 (息子) を持つ前は大の慈善家であった. 彼はそれをやめてしまった. 息子に大きな財産を残してやるために, 不正な蓄財も始めた. (PAULI 682 話)

**alraun** (別形 *alrun*) f./m. ① (植物) マンドラゴラ. ② 魔法や予言の能力を持つ女神の名. *O Alrun, ich ruff dich an, das du meinen Man tugenthaft machst*. アルラウン様, お願いでございます. 私の夫を気さくな人柄にしてくださいませ. (PAULI (1) (2) 135 話)

### 例文の出典

(辞典の中と同じ略記号で記してある。日本語タイトルを使ったものは後方に挙げてある)

ACKERM (1) : Johannes von Tepl: *der ackerman*. Hrsg. v. Willy Krogmann, F.A.Brockhaus, Wiesbaden. 1978.

ACKERM (2) : Johannes von Tepl: *Der Ackermann*. Hrsg. v. Christian Kiening, Reclam, Stuttgart. 2002.

ACKERM (3.1) : Johannes von Saaz: *Der Ackermann aus Böhmen*. Band I. Hrsg. v. Günther Jungbluth, Carl Winter, Heidelberg, 1969.

ACKERM (3.2) : Johannes von Saaz: *Der Ackermann aus Böhmen*. Band II: *Kommentar*. Aus dem Nachlaß von Günther Jungbluth. Hrsg. v. Rainer Zäck, Carl Winter, Heidelberg, 1983.

ACKERM (4) : ヨハネス・デ・テプラ著、青木三陽・石川光庸訳『死

- 神裁判』現代書館 2018年.
- ACKERM (5) : ヨハネス・フォン・テール著、石井誠士・池本美和子訳『ボヘミアの農夫』人文書院 1996年.
- BK: Das Bonner Frühneuhochdeutschkorpus (= <https://korpora.zim.uni-duisburg-essen.de/FnhdC/>)
- EULENSPIEGEL: Ein kurzweilig Lesen von Dil Ulenspiegel. Hrsg. v. Wolfgang Lindow. Reclam, Stuttgart 1975.
- FAUST: Volksbücher des 16. Jahrhunderts. Eulenspiegel. Faust. Schildbürger. Hrsg. v. Felix Bobertag. Verlag Spemann, Berlin und Stuttgart, 1887.
- FW: Frühneuhochdeutsches Wörterbuch. Hrsg. v. R. Anderson・Ulrich Goebel・Oskar Reichmann. Walter de Gruyter, Berlin・New York. (分冊あるいは合本の形で刊行中のため、年号等は省略)
- GR.NEU: Deutsches Wörterbuch von Jacob und Wilhelm Grimm. Neubearbeitung. Hrsg. v. der Deutschen Akademie der Wissenschaften zu Berlin in Zusammenarbeit mit der Akademie der Wissenschaften zu Göttingen. S.Hirzel Verlag. (分冊あるいは合本の形で刊行中のため、年号等は省略)
- HIOB : Die mitteldeutsche poetische Paraphrase des Buches Hiob. Hrsg. v. T.E.Karsten. Wiemannsche Buchhandlung, Berlin 1910.
- KD: 工藤康弘 : 『初期新高ドイツ語小辞典』大学書林 2018年.
- KNAB.SPIEGEL : Georg Wickram: Sämtliche Werke. Hrsg. v. Hans-Gert Roloff, Bd. 3: Knaben Spiegel; Dialog vom ungeratnen Sohn. W. de Gruyter, Berlin, 1968.
- LUTH : D.Martin Luthers Werke. Kritische Gesamtausgabe (Weimarer Ausgabe) 6. Band: Die Deutsche Bibel. 1929.
- LUTH.FABEL: Martin Luthers Fabeln und Sprichwörter. Hrsg. v. Reinhard Dithmar. Darmstadt, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1995.
- MINNEBURG : Die Minneburg. Hrsg. v. Hans Pyritz. Akademie-Verlag, Berlin 1950.
- MURNER (1) : Die Narrenbeschwörung. In: Thomas Murners Deutsche Schriften mit den Holzschnitten der Erstdrucke. Bd.2, Hrsg. v. M.Spanier, de Gruyter 1926.

- MURNER (2) : Von dem grossen Lutherischen Narren. In: Thomas Murners Deutsche Schriften mit den Holzschnitten der Erstdrucke. Bd.9, Hrsg. v. Paul Merker, Trübner 1918.
- PAULI (1) : Johannes Pauli: Schimpf und Ernst I, II. Hrsg. v. Johannes Bolte. Georg Olms, Hildesheim · New York, 1972.
- PAULI (2) : ヨハネス・パウリ 『冗談とまじめ』 名古屋初期新高ドイツ語研究会訳 (同学社) 1999.
- ROLLWAGEN: Georg Wickram: Das Rollwagenbüchlin. Reclam, 1968.
- SCHILDB : FAUST と同じ.
- SIEGFRIED: Deutsche Volksbücher in drei Bänden. Erster Band. Fortunatus, Die schöne Magelonna, Historie von dem gehörnten Siegfried. Aufbau-Verlag, Berlin und Weimar 1982.
- VIERHUNDRT SCHWÄNKE : Vierhundert Schwänke des Sechzehnten Jahrhunderts. Hrsg. v. Felix Bobertag. Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt, 1964.
- 『オイレンシュピーゲル』: 藤代幸一訳: テイル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら (法政大学出版局) 1980.
- 『ザックス』: 藤代幸一, 岡田公夫, 工藤康弘: ハンス・ザックス作品集 (大学書林) 1983.
- 『道中よもやま話』: イェルク・ヴィクラム著, 名古屋初期新高ドイツ語研究会訳: 道中よもやま話 (講談社学術文庫) 2001.
- 『パウリ』: 名古屋初期新高ドイツ語研究会訳: 冗談とまじめ (同学社) 1999.
- 『ファウスト』: 松浦純訳: ファウスト博士 (国書刊行会) 1988.
- 『ラーレ人』: 大澤峯雄, 櫻井春隆訳: ラーレ人物語 不死身のジークフリート (国書刊行会) 1987.